

昭和四十二年三月十日招集(廿二号)
第一面市議會定例会會議錄

館山市議会第一回定例会会議録(第二号)

昭和四十二年三月招集

一 三月十三日(月曜日)

一 議事日程(第二号)

第一議案第十六号

館山市議会委員会条例の一部を改正する条例
の決定について

第二議案第十七号

館山市固定資産評価審査委員会委員の選
任について

第三議案第十八号

館山市市税条例の一部を改正する条例の
決定について

第四議案第十九号

館山市特別会計条例の一部を改正する条例
の決定について

第五議案第二十号

館山市水道の設置及び管理に関する条例の
一部を改正する条例の決定について

第六議案第三十一号

館山市市営住宅の設置及び管理に関する
条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十号

館山市厚生年金保険被保険者休養施設
の設置の設置条例の一部を改正する条例の制
定について

第七

議案第三十号

館山市厚生年金保険被保険者休養施設並
に代化基金の設置及び管理に関する条例
の制定について

第八議案第三十四号

館山市取組員給与条例の一部を改正する
条例の制定について

第九議案第三十五号

千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合
規約の一部を改正する規約の制定について

第十議案第三十六号

館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を
改正する条例の制定について

第七議案第三十七号

館山市清掃条例の一部を改正する条例の制定

第七、

について

議案第三十八号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条

例の制定について

第三議案第三十九号

館山市福祉事務所設置条例の制定について

第十四議案第三十号

館山市附属機関設置条例の制定について

第十五議案第三十一号

館山市内字区域及び名称の変更について

第十六議案第三十号

昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

議案第三十一号

昭和四十一年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算

議案第三十二号

昭和四十一年度館山市と畜場特別会計補正

予算

第七議案第三十三号

昭和四十一年度館山市休養施設特別会計補正

予算

議案第十五号 昭和四十二年年度館山市館山工業水ステル特別会

計補正予算

議案第十五号 昭和四十二年年度館山市水道事業特別会計補正

予算

午前十時二十八分 開議

○議長(田中祿郎君)

本日の出席議員数三十名

これより第一回市議会定例会第二日の会議を開会いたします
本日の会議はお手元に配付の日程表により行ないます

この際日程についておはかりいたします。

十一日の会議のより内容の説明を残し、次に議案第十一号乃至第十五号の昭和四十二年度特別会計補正予算案の説明をただちに行ないたいと思ひます

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(田中祿郎君)

異議なしと認めます。よつて日程を変更されました。

日程第十七議案第十一号乃至第十五号を一括上程し説明を求めます。

・保健衛生課長（池田亮山君）

議案第十一号国民健康保険特別会計第三款の補正予算についで御説明申し上げます。

今回の補正は事業勘定歳出におきまして四十三万二千円を追加し四十三万二千円を減額更正にしております。

直診勘定におきましては歳入歳出それぞれ六万七千円を追加いたしました。合計二億千五百七十三万七千円といたして、このものがござります。

内容につきましては事項別明細書により御説明申し上げます。五六ページ事業勘定の歳出から申し上げます。

一款総務費一項にござります。六万二千円の追加。旅費、役務費、それぞれ不足をきたす見込みにござります。追加をお願いいたします。二款保険給付費にござります。純追加額はござりません。療養費、給付費が二十二万円の減額。療養費におきまして二十二万円の追加。

となつております。二十八節の直診勘定の繰り出しが百六十三万四千円計上してあります。直診勘定の一般療養給付費の占める割合が多くなりまして不足が見込まれまして二十九節の負担金補助及び交付金一般療養費の部分から直診勘定の繰り出しへと組みかえにしております。

二目の療養費の二十二万も同様に一般診療費を組みかえまして追加計上にわけてございます。

次に三項の葬祭費でございます。これも五万円程度の不足が見込まれますので追加をお願いいたします。

三款保健施設費でございますがこれは二万四千円の追加これは今年度県下の保健婦の制服が統一されました関係で一着八千円三人分を追加したにわけてございます。

次に諸支出金でございますが二十九万六千円の追加これは四十年年度の療養給付費の国庫負担金が二十九万五千九百八十四円の変更

ということになりまして、この予算からこの金額を削ったわけでございます。これらの財源に充てるために予算備費を四十三万二千円更正いたしまして差し引きゼロということになります。

直診勘定につきましては事務長から御説明申し上げます。

・豊房診療所事務長（平柳徳藏君）

直診診療施設勘定につきましては御説明申し上げます。

一般管理費といたしまして十三万二千円の追加給料共済費については給与ベースの改訂によるものとございます。取崩手当十六万五千円の不用額が出る見込みでございますので財源として更正いたしまして。

旅費需要費それぞれ不足見込みを追加計上いたしました。

十二節役務費三万円、このうち自動車損害保険料一万五千円これは先般購入いたしました事に對するものとございます。

十八節備品購入費二万円、宿直用ふとんが老朽化したため

これを購入するものがございます。

医業費として五十三万五千円の追加をお願いいたしました。

備品購入費三万円、眼底鏡、往診カバンを需要費三万円の不用額が見込まれますのでこれを財源として計上したものとございます。消耗品三万五千円診療の増加に伴いその不足見込みでございます。医療用衛生材料費五十万円、診療の増加に伴いいたします。医薬品等が不足する予定でございますので計上した次第でございます。

合わせまして六十六万七千円となっております。

次に歳入診療収入として入院が七十万円の減額、これに對しまして外来収入でございますが国民健康保険が七十万、社会保険が五十万、その他の診療収入五万六千円それぞれ増加が見込まれますので計上いたしました。

県支出金、県補助金十一万一千円、これは先に購入いたしました。

診療用の車に対するものとレントゲン修理、こういうものに対して補助金が出ますのでこれを計上いたしました。以上正歳入におきまして六十六万七千円でございます。

。衛生施設課長（吉田耕一君）

議案第十二号につきまして御説明申し上げます。

と畜場特別会計予算でございますが、補正の要旨は人件費等の改訂に伴います。不足額を八万五千円補正いたしました。総額を四百九十万二千円といたしたい。なお内訳につきましては一般会計における人事課長からの説明いたしました通りでございますので省略いたします。この財源を予備費を更正して充當いたしたい。このように考える次第でございます。

。商工水産課長（小沢正治君）

議案第十三号休養施設特別会計の補正予算につきまして申し上げます。

一昨日の条例案の積み立て金関係が議決していただきたいものとして
予算案を編成しております。四十年年度から四十一年年度の繰り越し
金は三百三万五千円あるわけでございますので本年年度の見通しから
これを組み入れまして三百万を積み立て金に回したいということエース
ホステルとの関連におきましてエースホステルの運営が最悪の場合赤字
が出るかもしれないということから鳩出荘会計からエースホステル会
計に二億二千万程度繰り出しを行なうということでございます。
この二点が主体でございます。

まず歳出として一般管理費におきまして二百九十一万九千円の追加
でございますが給料、取員手当の減額が積み立て金三百万といたし
ましてエースホステル繰り出し二十万差し引き二百九十一万九千円
の増額になるわけでございます。給料の増減額につきましては正規
取員の退任、取員の入れかえ等が給料、取員手当が余る見込みに
なつたわけでございます。

経費におきまして十二万五千円の追加でございますがこれは貸金報酬費とそれぞれ取員の切りかえ等とこのような形になりました。旅費につきましては三月に観光下会支配人会議等と旅費の不足を見ましたのでこの際追加をお願いしたいというものでございます。これらの財源を一応繰り越し金の三百三万四千円を充当したいというものでございます。

議案第十四号のリースホテル会計でございますが前年度までの実績からいまして一応利用率三八％を期待して予算を編成したのがあります。が二月末日現在の実績から勘案いたしますとやはり目標達成が非常にむずかしいためにこれらの補正をいたしまして最悪の場合二十万程度の赤字が出やしないかという関係から二十万円赤字が発生した場合に備えて休養施設会計からの繰り入れをしております。事業収入におきまして当初目標としたものより

七百三十名前後の減が見込まれますのでこれを一応収入面と減額

補正いたしましたして休養施設会計からの繰り入れを充当したい
というものがござります。

歳出におきまして人件費が減額になっておりますがこれは四十一
年度におきまして当初予算が三人予定したのござりまするが臨時
取員等がまかないまして正規取員二名のまま繰終りまする関係
上約一名分の減額ということござりまする。

衛生施設課長（吉田耕一君）

議案第五号につきまして御説明申し上げます。

上水道事業の会計でございますが今回三十万九千円を追加した
しまして歳入歳出の総額を五百六十九万円としたいと考える次
第でございます。

明細書により御説明申し上げます。

事業費の一般管理費におきましてこの追加でございますが人件費
の不足特に賃金で十万円お願います。これは宮城水道におきまし

て配水管の亀裂を生じまして漏水がはなはだしくなつたためにこれを修理いたしますとともに浄水池の修理を行なひます。更に貸金に不足を生じたわけがございます。

水道管理費でございますが、原材料費におりて十二万円、本年度に入りまして暮からの濁水に伴います、房州水道からの応援給水をお願いしたわけでございます。それに対しまして、源水料を十二万円、お願いしようというものでござります。大体五千九百トンの応援給水をもらつたわけでございます。一トン当り二十円ということと、今日計上したわけでございます。

備品購入費におきましては十万円、減額、滅菌器の予備の備え付けを必要とする関係から当初予算におきましてこの購入を計画したわけでございますが、いろいろ支出の増を考へまして、今どうやら使へるおるといふことで、本年度見送りまして、次の年度にということと、十万円を減額しようというものでござります。

以下人件費等につきまゝは省略いたします。

議長（田中祿郎君）

暫時休憩いたします。

午前十時五十三分

休憩

午前十時十分

再開

議長（田中祿郎君）

休憩前に引き続き会議を行います。

十一日の会議の説明が終つておりますので、今日はただちに質疑
を行ないます。

日程第一議案第十六号を上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）

議案第十六号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか

(「異議ない」と呼ぶものあり)

議長(田中祿郎君)

異議ないと認めます。よって議案第十六号は原案通り決定いたしました。

日程第二議案第十七号を上程いたします。

一、番(辻田実君)

この件につきまして全員の協議会の中、若干討論があったわけですが、ございますがそれと関連して二点、御質問申し上げます。両名出ておりまするけれども、このうち安田さんについては特に懸念された点はないわけですが、ございまするが安田さんにつきましては多少お伺いしたいと思っております。

と申し上げますのは、今回の任命は本間市長自身ではなく、代理者

かという点がある。こういう中です。第一点として今まで継続してやってきましたのであるが、この際継続してもらうのが一番無難だろう。こういう意図をもって任命されておるような縣令心がある。この点についてはどうなのか、まずお伺いしたい。

それからその経歴について二点として固定資産評価委員会の任務は条例上には地方税法等を見ますとかなり重要な任務があるように伺われる。非常に業務であるということが予想されます。そういう固定資産に対する異議申し立てが出た場合に非常な能力と労力というものが必要視されると思いますけれどもこの点についてはどうか。

過ほどの程度の異議申し立て件数が出るか、お伺いしたい。第三として特に安西さんについては、解を得てくるか、生年月日等を見ますとこれから三年やろうというわけでございますけれども健康状態等をおみ合わせよく安西さんと話し合

れたか、向こうから自発的にやっていただけるというものがあるか、何か議会承認が容易に出されるものではないか、出してあげば何でも承認されるものではないか、こういうふうに受け取られる。その点について従来もそういう案があつたわけでございますので、以上三案について細かく御説明をさせていただきたい。かように思っています。

市長取務代理者助役（小出武男君）

ただいま御質問の案ですが両名とも過去の長績におきましてきわめて適当であるという判定のもとに再認任をお願いした次第でございます。なお件数でございますが大体一年に二件か三件基準年度が十五件程度というところでございます。それから本人の内諾の案でございますが認定を受けました後に市長の任命行為によりまして任命するんですが御承認を得ます段階におきまして必ず本人に了解をございします。

経歴は木材業より、年令的にどうかということですがこれは
さしつかえないと私も考えなくてはおります。特に病氣も起きたら
その時矣が考えなければならぬ。今の時矣がさしつかえない
という考えのもとにお願いしようというものでございします。

一。番（江田実君）

過去数回やうれておるわけがありますから実績もあるといつ
ことは当然なことですがなければ問題はないわけがございまして
私はもうちょっと選任に當つて市当局は考えられたのではありませんか
という気がしたけれども特に市長と相談してこの人なうといつ
ことと確信を持つて選ばれたのか、病氣ももつて選考する期
間がないのやうにかお答えにくいと思ひますがその点一言。

市長取務代理者助役（小出武男君）

私の名前が提案しておりますがもうろん市長と相談の結果
果てていまして市長の病氣前からこの問題については検討して

おりまして過(こ)去(こ)において非常に専門的な技術を持つておるし非常にむずかしい仕事を完(かん)成(せい)全(ぜん)にやろきまゐる人(ひと)ですのぞこの際(さい)さらにもう(もう)期(き)お願(ごん)いしたいということでございます。

議長(田中祿郎君)

議案第十七号は討論者省略原案通り可決することに御異議ございませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)

異議なしと認めます。よつて議案第十七号は原案通り決定されました

日程第三議案第十八号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)

議案第十八号討論省略原案通り可決することに御異

議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長 (田中祿郎君)

異議なしと認めます。よって議案第十八号は原案通り決定いたしました。

日程第四議案第十九号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長 (田中祿郎君)

議案第十九号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長 (田中祿郎君)

異議なしと認めます。よって議案第十九号は原案通り決定いたしました。

日程第五 議案第二十号を上程いたします。

一八番（西村真次君）

私は条例の制定について異議を持つてゐる者ではありません。むしろこのようにはつきり分類せしめて立てせるといふことは非常に結構なやり方であるわけでございますが、これに関連いたしまして、ちよつとお尋ねしておきたいと思ひます。宮城簡易水道あるいは鉾田簡易水道、このように独立した水道になるわけでありますが、この実態を見ますと、宮城水道におきましても、先般水源池が枯渇したために給水が思ひ通りにまかせなかつた。そのために鉾田簡易水道とつないで給水に當つたけれども、思ひような水量がなくて断水が続いておつた。また最近、南くところによりまゝと、鉾田の簡易水道においても市の方に陳情があつたような模様でございますが、このように私達の市民生活に切つても切れない

水道がとかく断水ばかりである。また水を必要とする夏季に入りますると毎年房州水道から応援給水を頼まなければならぬ。こういうような状況にあるわけでありますがこれに対して根本的な面について当局はどのようにお考えになつてゐるのか。この点お伺いしたいと思います。

・市長取務代理者助役（小出武男君）

ただいま関連事項といたしまして簡易水道についてのいろいろな水不足などの点はばつぱつでござるがこれらについて市はどのような考えを持つてゐるかという御質問でございますが簡易水道は御承知の通り特定の地域で特定の人数の基準にして設定される水道事業でございます。もっとも現住人口以外に若干増加人口を見ますがしかしいうならばその地区の共同井戸というような考え方が簡易水道従つてこれが施設についても国の補助起債というふうなものもある基準以上には取り入れられないというのが財政面から

見に及ぶでございます。従いまして簡易水道自体がほとんど発展して人口がふえていく需要がふえてくる段階になります。当然当初予定した増加率以上の面については足りなくなるといふのが理屈からいって現状だと思っております。

そこで館山市にはこれらの幾つかの簡易水道がございますが、いずれもそうした基準によって設定された水道でございます。

従いましてこの地区に膨大な人がふえることになります。然し今後は他の方法によってやらなければならないということが考えられます。しかしこうした地区はいずれも水源も非常に少ない地帯でございます。可能な範囲におきまして河川を一部利用するとかあるいは井戸を掘るとかして簡易水道が足りない面を補足してやっていくという極端にいうならば小細工になると思いますが、そういう限度にしか過ぎないのではないかと思っております。

もう一つの方法としてはこれらの水道を連結したかどうかという

意見もございます。ところがこれが非常に地区的の感情と申しますかその地区がそれを説定するまでの努力いろいろの点がございます。市営水道といながら簡単に連結できないのが現状でございます。しかし今申しますように個々の水不足を緩和する方法としてはある程度どうした連結という方法も考えるべきではないかということも考えられます。いずれにいたしましても簡易水道自体の本質がその地区の現住民を基準にした施設であるという点が大きな問題点でございますので今後水道事業全体として考えなければならぬ点でございますがやはり大きな財源によつて水源の確保をした水道が今後できない限り若干のトラブルが生まれてくることはいなめない事実でございます。

当面の考え方としては井戸の場所を見つけてしまつて幾分でも水源の補強をしてやろうという点がございます。一々考えられます。しかし井戸ばかり掘つて水源があつても施設そのものがそれにマッチ

しなければ効果がないうでこれらもにらみ合わせて施設を考
ていくということにしか今のところ簡易水道の問題点を緩和す
る方法はないのではないかと思います。にだもう一つ市の房州水道
の応援給水でございますがこれは今の時点におきましては相当
考えられる点でもございますが房州水道もやはり夏季には足り
ないのでございますので各場余っているときに市にもうって市の
井戸を使うところ夏場それを使うといくこういう操作をしながら
両方が相互扶助しながらやっていくということも一部やつのござい
ますがいずれにしても夏場間に合うようにということとはなかな
か困難でございますがただいま申し上げますような考え方が幾
分でも緩和しやりたいというふうに考えておるわけでございます。

一八番（西村直次君）

大へんよい御説明をいただきまして了解いたしました。
簡易水道の基準あるいは形態というものも多少は存じて

おるわけでございますがその基準内において機能を十分に発
揮しているかどうか、こういう点に私は問題があるのではないかと考
えておるわけであります。この点いろいろ御苦慮されておるようご
ありますのでこれ以上申し上げませんが万全を期せられますよう
に要望いたしておきます。

一〇番（江田実君）

簡単に聞きますけれども上水道と簡易水道の点について相違
格下げになるわけですが水道法の三条の中に水道についての定
義があるわけであります。そのうち上水道は本文をみると
簡易水道は第三項によつて給水人口五千人以下のものについては
簡易水道だとある。あそこは海員学校がふきたり航空
隊がふきたりして給水人口も多くなつておるので簡易水道に格
下げる必要はないのではないかと思ひますが今の答弁ですと
簡易水道とした方が補助とか経費の面などということはいわれ

てあるようでございますけれども、そういう点について上水道と簡易水道の違い、特に私に配するのは簡易水道になると水道法の二十五条によりまして、特例がありまして、いろいろの消毒、そういうものの緩和がされておる。特にばうきりいたしておりますのが、自然流下のみによつて云々といふこと、上水道より緩和されたものがあるような気がする。水道というのは簡易水道を上水道にいくのがあれのような気がするが、今助役が申された線がわからないことはないけれども、その点もかねて上水道を簡易水道に移行する根拠ももう少し具体的に教えていた方がいいと思います。

衛生施設課長（吉田耕一君）

お答え申し上げます。ただいま一番議員さんの御見解の通りでございます。宮城の上水道を簡易水道に格下げと申しますのは、いわゆる水道法に基きまして、やはり五千人以上の人口につきましても、見解の通り簡易水道としての措置をしまして、ということでございます。

設備の内容等においては同じでございます。名称を五千人未満を簡易水道いわゆる地域水道ということとを私も法の解釈をしっております。従いましてそれは音軍が作りまして宮城の水源だけではとうとう上水道としての機能がござないわけがあります。六万トン程度の有効水量が当初作つたとうございしますがなお南条豊房地域に水源を求めましてあそこかう大きな管が赤山に持つてきて一本化してさうしてあの当時何万人かの給水にあつておつたと聞いております。なおそれと合わせますと洲の崎航空隊等の使用ということに伴いましてその他の地域からも井戸を掘つて一本化した上水道ということと軍の水道施設として作つたものとございましてその後豊房地域かうの給水管等の接合によつて宮城の地域と柏崎・大賀笠名の一部という程度の給水が市がいきつぎまして実施しております。現在の給水人口を見ましても二千二三百人實際は二千百九十四人になっておりますが

自衛隊の取員の異動等によりましてはよりした把握がございせんが八百から九百と見ましても五千人に満たないのが現状でございます。しかし実際の需要量と申しますのが必要な水量は基準より相当教使っておりますのが事実でございます以上のような観点から経営の面から考えらるわけでございます。

一〇番（辻田実君）

大体了解しましたけれども三桌ほどくわしく聞いとおきたい。宮城水道につきましては館山航空隊それから館山港こういうものが大きい需要があるのぞという面が水の絶対数が不足して定着の給水人口航空隊の場合には定着した給水人口こういうことになるかと思いますが二千百九十四人の人口はある程度削減減されて教えなければならぬ。こういう点があるが特に関係があるかないか。特に地元民にしてみれば上水道を簡易水道に格下げという不満を持つてくればわれわれとしてもある程度認識しておかなければ

ならない。それからあの水道については若干問題がある。一八番議員が指摘される今後どうするだけ改善していきたい、こういうことがあるわけがあります。が簡易水道になることによつて今まぐ上水道の場合には何か何でもという形があるが今度簡易水道になったことによつて制限そういうものは出さないと従来とは全くかわらないか、参考までに答弁にしたいと思います。

。衛生施設課長（吉田耕一君）

お答えいたします。簡易水道になったためにサービスその他の面について消毒などの面においても従来と同様全然かわりございません。なおこの条例に徹底した管理をしてみたい。このように考えまわります。それから給水あるいは施設の管理運営ということについても全然かわりございません。なお先ほど申し上げましたようなより以上の給水人口もふえていくという考えもしております。のぶより以上の整備・管理をしてみたい。このように考えまわります。

議長（田中祿郎君）

議案第二十号は討論省略原案通り可決することに御異議
ありませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）

異議なしと認めます。よゝゝ議案第二十号は原案通り決定
せられました。

日程第六議案第二十一号を上程いたします。

三〇番（安藤亀吉君）

簡単に伺います。原案はもうろん賛成でございますけれども
第二厚生寮の跡という説明がありましたがもうろんこれは取りこ
わしをしなければならぬ建物でございます。また、四十・二世帯
入っております記憶にありませんが、今まで入居してゐる人が
今後どうなるか、これが気になるので伺いたい。

あの跡は大蔵省の地所やだと思ひますが、市有地があるかこの二点に
了くお伺ひたい。

。財政課長（長谷川広治君）

お答え申し上げます。厚生寮に入つておりましたものの所遇に
つきまゝは四十年年度の建設住宅におきまゝとせらうの方に全部
ひきうつしてあります。工地上につきまゝは払い下げ申請してあ
ります。が現在まづに価格が決定しません。ととりあえず貸し付けと
いうことと進んで参ります。

本年度中には払い下げ価格が決定し払い下げられるものと思ひます。
。三の番（宇藤亀吉君）

わかりました。終戦以来二十数年地価が暴騰することは私が申
し上げるまでもなく今払い下げするといふことはちやうと手遅れでござい
まして先ほど水道も問題になりましてが厚生寮あるいは海員学校
校に至ります。宮城水道というものはハイニチ位の鉛管が通つた。

それがいつの間になくなってある。あの周辺一反四十坪を買えた。
私も払い下げた。しかし今あの地域は坪一万円おそろく大蔵
省でも安い価格ではぶきない。もうと早く手を打つておくべきではな
いかと思います。一日も早く市有財産として払い下げを完了す
べきである。私はこう思っております。わかりました。

議長（田中祿郎君）

議案第二十一号は討論省略原案通り可決することに御異
議ありませんか

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）

異議なしと認めます。よう議案第二十一号は原案通り
決定されました。

日程第七議案第二十二号及び二十三号を一括上程いたします。

二四番(島野茂樹郎君)

前の別表を見ますと一と二に分れております。これは別表の二をなくして二はこの休憩という事に統一した。こういう解釈がいかがうかということが一つそれから議案第三十三号の第三条の二項「もつとも確實かつ有利な有価証券にかえることができよう」という表現があります。現実にはもつとも確實、有利な有価証券はどういうものをさしているかこの二点に答へ願います。

商工観光課長(小沢正治君)

第一と第二は預見込みの通り第二表を一表に統合いたしました。一括するということでございます。それから第二点に関しましてはこのような基金の原則的な条例の定め方について基本的なものであるわけでございます。それを取ったわけでございます。実際としてはこのような目的で積み立てをするわけでございます。有価証券にかえる暇もないと考へております。

一〇番（辻田実君）

近代化資金の設置・管理に関する条例ですが附則のうち館山市財政調整基金の設置及び処分に関する条例が廃止されるわけがあります。がこれに積み立てられていた金が千六百五十万あるように見受けられます。がこの点について調整基金そのものが新しくこちらの休養施設^{（施）}の近代化基金に自動的にいくのかということなんです。

地方自治法によりますと目的を持って積み立てることができ、こういうことに従う必要はあるわけがあります。がこの点について館山市財政調整基金を廃止しなければならなかった理由。もう一つは鳩山荘の基金の積み立てこれが両立できないものか。この点について御説明願いたい。

今年の予算書を見ますと財政基金の中から千六百五十万が繰り入れ金として繰り入れられてあるわけですが、それが未執行

というが完了したのでそろそろに移ったのかどうか、そういう点について御説明願いたいと思っております。

・財政課長（長谷川広治君）

附則の関係が御説明申し上げます。四十一年度に千五百万円の財政調整積み立て金を繰り入れたしまして、市民会館の建設に充てるという予定でございますが、工事関係から工事費の支出が若干違つて参りましたので、四十二年度におきまして全額繰り入れを――工事を施行することになったわけでありますが、規定から参りまして全額を繰り入れますと、条例の必要がなくなるといふことが附則におきまして廃止したわけでございます。四十二年度におきまして財政的な面から考えまして多少積み立てざるという事態になりましたときに、その時と異な新しい財政調整積み立て金の設置条例を提出いたしまして、そこを改め、御審議をいただく必要はないか、積み立てをしたいと思います。

かように考えられます。

一〇番（辻 田 実 君）

その案についてはわかりました。もう一つ自治法の解釈になります。が、この基金というものが二つ併立して条例を存立することはできないのか、ふざれば一挙にこの廃止なくともいいような感じもありませんが、この案教えたいただきたい。

・財政課長（長谷川 広 君）

積み立て金の設置条例は特定目的のためであれば三つでも四つでもかまわないということになります。財政課止積み立て金につきまゝは特定目的ではなく、市全般の財政調整という意味で積み立てをしてあるわけでありまして、それを今回取りぐずすということとで今回廃止して新しく積み立てをする野史にあつては、新しく内容なども自治法改正で多少の違いはありますが、新しいものを出して御審議いたしたい。

たいという考え方がござります。

議長（田中祿郎君）

議案第二十二号、二十三号は討論省略原案通り可決するこ
とに御異議ありませんか

（「異議ない」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）

異議ないと認めます。よって議案第二十二号、二十三号は
原案通り決定されました。

午前の会議はこれにて休憩いたします。

午前十一時五十九分

休憩

午後二時一分

再開

議長（田中祿郎君）

午後の出席議員数二十九名

休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第八議案第二十四号を上程いたします。

・三二番（三沢節君）

本案につきまゝでは私としては異議ございませんが管理取手
当について特に規則で指定する者についてその取務の特殊性と
いうことが出ておりますがこの内容について説明を求めたいと思ひ
ます。

・人事課長（小沢正治君）

管理取手当に関しましてはすでに県下の各市にありても実施さ
れてゐるわけが館山市といつても非常に遅れがあったわけ
でございますが、一応実情からいいますとそうそう管理取
手当を他市にならうと規定する段階にきているであらうとい
うことと管理取の事実上の取り扱ひといつても、これは管理

または監督にあるという立場、立場のもの、がいわゆる理事者の側
近といえますか、そういう形を順次長の指示に従う時間にとられ
ないで行動する、という考え方が、あるわけがあります。そういった
関係から、そういう命令を受け、時間にとられ、ないで、常時時
動くという形から、特殊性といふことが、いわれるわけがあります。
が、それらに対しては、管理または監督の地位にあるものは、原則
として、超勤、夜勤手当というものにかかわらず、常時時長の指示に
よる行動をする、という面が、出てくるわけがあります。それらを理論
的な面と現実をマッチさせる、という意味から、超勤、夜勤手
当の支給を行わないが、管理取手当一本にして、名実ともに監督
取手、監督者としての行動を確立し、もう一つ、という考え方が、こ
ういふことです。

。三二番（三采節君）

大休趣旨はわかりますが、ソフーますと、現在館山市として

管理取手当を受けるという方はどういふ人になりますか

人事課長（小沢正治君）

現在の制度といいますのは、職員に等級制があるわけがあります。が等級制の中で管理または監督の地位にある、つくという場合には一応一等級という等級制があるわけです。それと一面には長の部局として課制が、かれ課長があるわけですが、その他に地方自治法の中で他の執行機関として義務設置が要求されているものに各種委員会がある。教育委員会とか農業委員会と云うのは監査委員、事務局、選挙等があるわけですが、現在の実は、さういふ一長部局の各課長と自治法の義務設置が要求されている執行機関の事務局部局、しかも一等級であるものというふうに限定—に、いと考えております。

二三番（三沢節君）

どうしますかと予算との関連が出て来ますが、一等級ではなく二等

級の局長あるいは事務長というたものに対してはつきりいいます」と
農業委員会事務局長・監査事務局長というたものは漏れく
おるようには感ぜませんが、事実上といたしましてはやはり完全な監
督・管理のせめを負う人ではなかつたかと思ひます。そういった立
場からやはり「等級」といふ線とどめるのがどうかと思ひますがこ
ゝろは同じいたしと思ひます。

・人事課長（小沢正右君）

理論的な面と現実の面とが多少矛盾するといふ面がどこで線を
するに―も起るわけであります。

一つの実例といたしましては管理または監督の地位にある者といた
し―も部下がわづか一名―かないところもございますし―さう
に課長補佐であつても管理または監督すべき部下が三十名を
越えるといふ課もあるわけであります。そのような形があるといふ
こととさうに今までの等級制が「等級」そのものが全然「管理または監

督という形を無視して、ミに行なわれ、おるものがないという面もあるわけがあります。そういう予看が一応ごういふすけれども当面第一実施段階といたしまして、その区切りを地方自治法の義務設置の執行機関及び長部局の課長といふことで等級制の一等級とマッチさせるいくというのを考え、あります。が新年度予算で計上されたものは一応二等級である執行機関の長というものは予算は計上しなかつたのであります。が理論的にはそれらのものが管理または監督上の地位にあるといふことをはっきりつかまえて、そうしたものを行う場合は、これからの人事管理の面でマッチさせるいくことで異動などを行うまいか、といふふうに考え、あります。

三二番（三沢節君）

大体わかりました。が一人乃至二人という係も事務内容というものが農業委員会に、その内容も重要なものであります。のび管理

監督という面が相当大切ではないかと思ひます。取務の上のう
うに観るから初めらばから結構ともいいにいんすが将来
よく考えもつたいと特に要望してあつたすがその見通し
についてお伺いしたいと思ひます。

。市長取務代理者助役（小出武男君）

管理取手当制度を新しくござえようとするものがありすが
ただいま御意見にありましてように管理取があつて等級によつてもち
われないという趣旨も一理あると思ひます。管理取が一等級を持つて管
理取と見るという客観的な考え方も一面あると思ひます。この点は
人によつて解釈が違ふと思ひますが仮りに行政委員会である農
業委員会とか監査委員その他二・三を引いてみてもこれらについては
今後の任用において一等級をもつてやういくという方法がまず一つ考
えられます。この点は現時点ではより踏み切れませんが一応一等級
を出したんすが今後またうに検討いたしまして行政委員会では

二等級でもいいんではないかという結論が出ますれば終局に於いてさうに管理取として指定してもいいんではないかという議論もあつた。が今回の提案では一等級を管理取等級と考えた立案したわけが有ります。ただいまの今後のこうしたものに対する改善の見通しは、どうするがこれにつきまゝはあつるだけ早い機会に研究いたしまして結論を見たいと思つます。一応最初でござつますので、こうした線が決議を得たいと考えたわけが有ります。

・三三番（三沢節君）

ただいまの助役さんの話で了解いたしました。ぜひとも今後十分研究されまゝ、こういうた方々にも管理取手当を支給されまゝ、ように要望いたします。

・三五番（松本藤太郎君）

第二条の方は、その発効ということの結構だと思つます。第六条も、これについてお尋ねいたします。

管理取手当を出す範囲ですが二等級でも出すということではなく
そういう人は一等級にしてそうして基本的な考え方に立ててすべきだ
私はこういうふうに考えておりますので私としてはそういうことを要
望いたします。管理取手当を出すという以上それにかわるべき一般
の人に対する超過勤務手当、こういうものを正式に支払いをされなけ
ればならない。これを考えておりますがその点はどういうお考えになら
るか。それから年次有給休暇の点もそうするが、こういったものが
法に定められた通り実施されなければならぬ。管理取手当を支
給するといふ前提条件としてはこういうものがされなければならぬと
思う。この実施は四月一日からありますのでもう日もないと思ひ
ます。が、こう案についての当局の考え方、また今私が申し上げま
した点で完全にやるのだというふうにまとまらなければ結構ですが
その点

。市長取務代理者助役（小出武男君）

第一点でございますが、当然、管理取として任命した以上、一等級のものをするべきではないか、私もそう考え、ありますと申し上げました。が、管理取手当を支給する以上、一般にも超勤は正式に出すべきではないか、私もその通りに考え、あります。四月一日から考へてあります。年次有給休暇も正式に現在やっております。三五番（松本藤太郎君）

現在やっておりますが、休暇の改正条例を議会で見てないが、法にあるからいいということですね。

人事課長（小沢正治君）

有給休暇の翌年度繰り越すに關しましては、市の条例の解釈で改正を行なわないが、繰り越すことができるといふことを実施しております。

議長（田中祿郎君）

暫時休憩いたします。

午後 二時二十分

休憩

午後 二時二十九分

再開

議長（田中祿郎君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

三五番（松本藤太郎君）

年次有給休暇の点検が本案がここに出される前提として、
一、二の関係の発効に伴うものであろう公平委員会の議を経たい
と思います。がその案は尋ねたいです。

人事課長（小沢正右君）

本条例案の改正につきましては公平委員会に付議してごらんせん。
三五番（松本藤太郎君）

こういう条例が出たというのは一、二の関係を第二案は出さる。

そうするね、こういうものが直接、吏員の身分利益に關するものであつて、その発効に伴うものであるならば公平委員会の議を経なければならぬ。こういう片手落ちのものが出来るはずはない。又、それからそれは違法ではないかと思つて、さうにもう一点は条例の解釈ということであつて、いま「年次有給休暇は一年を通じ二十日とする」ということと有給期間も書いてない。

二項に「期間」は暦年とする」ということとござんす。休暇は一日を単位とする。休暇は申し出があつても仕事の都合があれば通用しない。何月に入つたものは何日やる。これだけの書きにくい。これでは本當の年次有給休暇の労働基準法に最初から「いま」まで読める。一年間勤務すれば一年間の六日の年次有給休暇を賦与しなければならぬという法律がある。しかも有効期間は二年より、十年勤めた人は十五日の年次有給休暇がある。一か二十日間くれる。残りの五日間はサ

ービスの五日ぶあつてそういうふうには解秩してゐる。十五年間勤続した者丸々二年間有効の休暇を二日間ももらへる市のサービスの日は一日もない。こういう解秩が成り立つ。それからこれでは館山市は全然私法をやつてゐるということを私は前々かういつてゐる。館山は日本だから日本の法律をやリなさいといつてゐる。どうですか。それに對して管理取手当が出る以上、こういうものが当然なつて、れなければならぬ。

人事課長（小沢正治君）

ただいまの御指摘の点でございますが、私不勉強でございますが、突込んだ勉強がござりまして、早く分けたんですが、早急にそれらの点ももう少し突込んだ研究検討を行ないまして、条例の整備された改正をいたしたいと思ひますので、その点も御了承いたしたいと思ひます。

三五番（松本藤太郎君）

結構です。ぜひそうやっていただきたい。管理取手当の支給とそのものが一致しなければならぬ。ずれるはいけません。ずれないようにぜひお願いいたします。

二三番（中村省吾君）

大体松本議員の方から出ましたので一言だけ関連して申し上げたいと思います。先ほど助役の方の答弁で管理取手当の範囲が改善したいという言葉が出た。私は管理取手当の範囲について必ずしも範囲を広げることが改善ではないと思つた。私かういふふう改悪かも知れない。しいていふなら管理取手当が疑問視されなければならぬ。そのことを範囲を広げることが改善という考え方。このことはもつとよく研究してもらわなければならぬ。この点が一臆。

有給休暇の点であります。がまだあります。今の答弁で大体納得いたします。ので改めて質問いたしません。が管理取

手当の範囲というところが改善ということがいわれまゝたがその言
葉はもう（ペン）考えなみーくいただきたい。要望のみ申し上げら
れまゝです。

議長（田中 祿郎君）

議案第二十四号 討論省略原案通り可決することに御異
議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中 祿郎君）

異議なしと認めまゝ。よつて議案第二十四号は原案通り決
定せられまゝに。

日程第九 議案第二十五号を上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中 祿郎君）

議案第二十五号は討論省略原案通り可決することに御異議

ありませんか

(異議ないと呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)

異議ないと認めます。よって議案第三十五号は原案通り決定
されました。

日程第十 議案第二十六号を上程いたします。

一。番(田中実君)

まず幼稚園の保育料の値上げにつきまゝはいろいろの陳情申
し入れがあったわけでございます。けれどもそういう面につきま
もなく御質問申し上げたいと思ひます。先般の説明の中が吉
志野・松戸市康というところが例に上げられたわけでございます
すけれども保育料の値上げがそのときの説明でございます。ま
と大休他市に準じても低いのではないか。その根拠になつてお
うたようでございます。が、実際千円が他市に比べ、低いのかどうかとい

ことについてまず確認したいことと二番目に館山市に於きまする幼稚園の経費が赤字だといつてありまするが私の計算でございますと、ほぼ赤字というのは、感ぜられぬわけでございます。この点について、はどの程度、の赤字を根拠にされてあるか、また財政的に二百円上げることによつて増収部人か、どううち振りに向けられるか、その根拠を示してもらいたい。先般西岬幼稚園がござることに、ついでには、分地元負担によつて建設費等を充たしてあるわけでございます。単に保育料が安いといつてだけでなく、幼稚園設置について負担金を出してありますから、表面的には安いように思いますが、しかし、実質的に値上げ人か、はどういうところに使うのか、例えば豊房、館野等に幼稚園を作るかあるいは、現況の需要費が足りないか、給食が足りないか、この点について、まず二つの観点から御質問申し上げまする。御答弁のほどをお願いいたします。

教務庶務課長（干場伊石工門君）

お答えにいたします。第一桌の他市との比較でございますが、公営関係の幼稚園、館山市を入れて九市でございます。

これを使用料別に見ますと、松戸が千五百円、野田、習志野、千三百円、市原、千円、勝浦、八百円、東金、佐原、七百円、銚子、八百円、場六、六百円という金額になつております。それから第二桌の二百円上げることによつてどういふふうになるかということでございますが、支出を見ますと二千三百八十八円二千円でございますが、収入といふ――これはおもなものが幼稚園の保育料それから地方交付税の関係でございますが、これははつきり見えないというふうには私の方ではわかりませんが、大体幼稚園の関係のものは幼稚園があるなにかかわらず全部ついてもあるということをお願いいたします。

幼稚園があることによつて交付税がつくというところなく、私市の幼稚園でも公立の幼稚園でもさういふ事関係なく全部の市町村に幼稚園関係のものは見られるというところをお願いいたします。

ありまゝはふまゝに額は申し上げられませんが、幼稚園の使用料
というところに使われているかというところになりますと人件費の
関係を見ますと千九百四十八万六千円、これは率からいいますと
八五%その他の需要費とか備品費とそういう関係のものが三百四
十万円、一五%今年特にふえたというところはありますと前年
と同じ関係のものでございします。

一〇番（辻田実君）

私他市との関係ということであえて質問しましたことは前回の説
明ですと習志野、松戸市原と三市だけ上げ、少ない方はかくれ
ておたわけであります。まじょう見れば県下、数字からいえば八百円
七百万、六百万ということがたくさんあるわけが基本的説明が錯
覚に陥り入れられたような気がする。非常に遺憾な気がする
わけがございします。この案については全然問題にならない。

館山市より低いところがたくさんある。

二番目の点について今度値上げする額が全般的に予算が足り
ないから税金は法律で定まるところで取れないから幼稚園の保育料
だつたら二百円位いいだろうという点から先想をされるお
るのではないか。このことだと非常に問題が大きい特に決算委員
会の中の問題になつております。父母負担の軽減といふことが
あるわけがござりまする。義務教育でないからといふことでこの
う形がだされたのでは問題になる。抽象的によくわからぬから
値上げの点は需要費とか特定財源としてほころばせないとい
ふがよいのではないか。そういうふうに思つてわけがござりまするが
この点は再度お願いいたします。

関連して財政課長にお尋ねいたしますが地方交付税の関
係がござりまするが幼稚園児一人に対して交付税の基準単
価があるはずがござりまする。それが幾らかわからないか地方交
付税はそういう単価が累積して財政需要額によく計算さ

れくるからもうろん基準単価がそのままだとないといふことはわか
るあります。が積算基礎になる数字がわかつたう教えるにたゞ
たい。

・教委庶務課長（千場伊右衛門君）

千二百円にして去年との比較が大体去年が九百四十六万今年
が八百七十七万ということになります。千円になりますと千二百
万になります。需要費その他の関係が去年の予算が三百
五十万今年が三百四十万これは去年西岬の幼稚園関係
がありまして特に備品関係が多く出てあります。めづ
かしい数字がふくあります。人件費に比べて去年が千七百
九十四万今年が千九百四十八万円約百八十万の増となっております。

・財政課長（長谷川広治君）

交付税関係についてお答え申上げます。御承知の通り交

付税に及びます。これは小学校・中学校・高等学校以下その他
ということと一切の教育費を兼ねた単位費用でございます。
の幼稚園について幾ら幼稚園児一人について幾らという積
算基準はないというふうに考えております。大体人口十
万の都市で幼稚園四園というようなものが交付税の積算基
礎でございますので、私どもの市では五万でございます。
で大体二校あるいは三校というのが限度でございますが、交
付税の全額から逆算するにしましても幼稚園の経費としてど
の位置を占めるかということをおおよそ私どもの方で積算
しますと三百万位ではないか、これはあくまでもおおよそ
の数字でございます。正確な数字はございません。

○番（辻田実君）

教育基本法の中に第三条で教育の機会均等がうたわれ
ております。館山の幼児教育については決して機会均等では

ないと考えられます。例えば北条幼稚園 館山幼稚園については
二年制保育を実施しておりましてかなり完全に近い幼児教
育がなされております。

交付税関係についてお答え申し上げます。

御承知の通り交付税につきましては、小学校、中学校、高等学校、
校以下その他ということと、一切の教育費を兼ねた単位費用
でございます。その幼稚園について幾ら幼稚園児一人について幾ら
という積算基準はないというふうに考えられております。

大体人口十万の都市で幼稚園四園というふうなものも、交付税
の積算基礎でございます。その市では五万でございます。
ま、その大体二校あるいは三校というのが限度でございます。
が交付税の全額から送算していきまして幼稚園の経費と
してどの位まであるかということをおおよそ私どもの方で積
算しますと三百万位ではないか、これはあくまでもおおよそ

の数字でございます。正確な数字はございません。

一〇番（辻田実君）

教育基本法の中に第三条で教育の機会均等がうたわれております。鑑山の幼児教育については決して機会均等ではないというふうに考えられます。例えば北条幼稚園・館山幼稚園については二年生保育を実施してあります。かなり完全に近い幼児教育がなされております。船形・那古・神戸・富崎・西岬については一年生でございます。その他の地区については保育園をもつ幼稚園を兼ねております。ちよつと語弊がありますが、小学校区域にない。こういう地域もあるわけがあります。こういう中におきまして北条とか那古・館山・こういうところを前提として教育予算が足らないから教育費を上げる。こういうことは教育の基本理念・幼児教育の基本理念からいって間違いないか。

私は銚子とか勝浦等が低額である。特に銚子の場合館山より人口が多い予算規模が大きい。こういうところでも六百円、こういう数字が出ているといふことはやはり完全に幼児教育が全地域にまだできていない。特定の地域においてやられてゐるからこういうふうに見えるわけがあります。従つて例えば西岬の幼稚園を二年制にするからその財源が足りないそのためには西岬の人だけに負担を肩をさせるのではなくてみんなが負担すべきだと

館野・豊房に建てるにも必要だといふことである。保育料の値上げはわかるけれども半数近くも不完全なものにしてゐるという形の中を保育料値上げという形は非常におかしいのではないかと。そういう面についていろいろ肩もあるわけがあります。そういう面について十分研究したりほかの地区の人の意見なりそういうものについて参酌された上でこういうものが出されるときは基本的な問題をこまめに考えなければ

この点が一番この問題についてのかぎになると思っておりますが、この点について御答弁いただきたいと思っております。

教育長（押本禧逸君）

幼児教育の一般的な御質問でございますが、お答え申し上げます。各地区同様に幼稚園を設けるということについて、今現場の各地区の実態を考えて見ますと、幼稚園を完全に二年の幼児教育ということと進めていきますと、保育園が成り立たないという地区も出てくるのではないかと思います。そういうことと、現段階では幼児教育というものは幼稚園と保育園、これが公立のものと私立のもの、こういうものとかみ合わされておるわけでありまして、全体的なバランスの中をやっていかねばならない。今後辻田議員さんがおっしゃるように、将来は機会的均等、等しくそういう教育を

を受けるといふ方向はそうぶなければならぬと思ひます。
が現実の上の設置といふ問題については今後まだいろいろ
問題があろうかと思ひます。

なお保育園の一人一人当りの金額が幾ら位かかゝるか
といふことを財政を聞きまゝに保育園の一人平均が千
百九十円八十八銭といふ額が出るのだらうと聞いています。こゝ
いふことを見ても千二百円といふ近い額が出るわけだとい
ふことも考えます。なお公立の幼稚園がどういふ形かと申
しますと一番多いのが鉾子で十園その次が館山で七園市
原六園あとは非常に少い数でございます。先ほど八百円
七百円とかいた勝浦八日市場は公立の幼稚園は一つしか
ない。こゝいふ実情にあるわけでございます。

。一〇番（江田実君）

一つだけ結論を聞きたい。幼稚園を機会均等とさしてよく

そういう意味からもう今度の値上げをするのかしないのか
私はむしろ幼稚園の値上げすることによって他の地域に於ける幼稚園を進めようということとは保育園との関係保育料が安いということがかうんできないということになると教育長さんは教員専門家をすから小学校中學校に入っからの教員問題にひびいてくるということも考えられようのであるがそういう面ではむしろ鉾子のように低くおさえてあげた方が幼稚園がでさるということが早くなる。早く幼稚園の教育の機会均等という理念が確立される。確立されたこれではどうもやっつけられないから全体的に上げていくということであればわかる。

幼稚園が黒字とか赤字とか支出が多いか少ないかということでは補てんされてあるのでは根拠にならない。そういう点についてはどうかという答弁をいただきたい。

・教育長（押本 禧逸 君）

幼稚園と保育園が両立する形が今後いくわけがございまして、
がそれらをふまえて将来完全な形というところ、現段階では
それがもうぱうがございまして、課長が説明いたしましたように
幼稚園の取員のベースアップというふうなものとさらに幼稚園
の教育内容を充実、ま、この二つを中心にして二千二百
円という線打ち出たわけがございまして、

・二八番（山田 教宇 君）

ちやうと教育長さんに聞きたい、教育長さんは二年保育と二年
保育とどちらがいいと思っておりますか、

・教育長（押本 禧逸 君）

一応文部省などが指導してありますのは二年保育を中心
に考えているようございまして、まあ他の例になりますか、
皇太子様の幼見教育というのは二年保育である、それが

一心理想の形であらう。こゝいうことで承知してあります。

二八番（山田教字君）

最近の幼児教育の必要性というのは非常に叫ばれてゐるが東京のあたりの状況を聞いて見ても小学校・中学校までの教育の内容にまづ影響していく幼児教育が確固たる信念を持つて計画性を持った考え方をしなければならぬ、と思ひますが一年保育より二年保育がいいという考えを持つてあります。ならばこれは非常に大事でございまして、具体的に将来の見通しに対する長期計画を考へてゐられるかどうか、西岬でも二年保育の請願書が出たようにも聞いてあります。がこれは他の地区でも考へてゐること、でございまして大きな問題になつていくと思ひますが、一カ所だけ二年保育にする。都合のよいところだけ二年保育にする。これではいけない。保育園とは全く違ふと思ふ。

二年保育がいいという結論が出たならばそれに対する考え方をまとめ教育長としては将来の計画を立てられたらどうかと思いますがそれに対する考え方をお聞かせいた
だきたい。

。教育長（押本 禧栄逸君）

お答えいたします。先ほどから申し上げていらっしゃるが
一応幼稚園教育というのは特に当市では県下でもひとつと
熱意ある保護者の方々のあすすめによりまゝ県下でも
も銚子市という園の多数を擁しあるわけでございます
が何にいたしましても保育園という幼稚園的な教育を
今後やるようにということを含めて保育園というものが私
立にも市立にもあるわけをこれを幼稚園というだけにしほ
つてしまつて二年保育ということを進めようと現場でいろい
ろ問題が起るというところがあるわけでございます。これはなほ

義務教育のごときでいまいやんが父兄の希望によつて幼稚園に入
学希望一たり保育園の方がいいのだといつこつこつ両方が
あるわけでごときよりその実情を調査勘案いたしま
し必ず幼稚園一つ保育園一つといふようなことに現段階
ではどうもいかないのではないかといふ地区があるようにもあ
るわけがあります。 そういうことをよく今後研究し
てそれぞれ父兄の希望に合いますような幼稚園と保育
園の進め方を一いかなければならぬのではないかといふ
のが現在の気持ちでございます。

二八番（山田教字君）

教育長さんは保育園があるから幼稚園を二年保育に
ごときない。その方が理想だけれどもごときない。そういうふう
に見えるならば保育園が幼稚園教育の十分な補いをする
だけの内容があり得る。わかりやすいいえは幼稚園の方は

いわゆる資格を持った先生が入らなければならぬ――保育園は
保母の内容は全く違ふ。いわゆる小学校・中学校・高等学校
校まで影響を及ぼす基礎を作るところを保育園において補なう
といふことが内容の面において必要であるか。それに対する教育長
自信がありますか。

・教育長（押本権逸君）

それはとても自信がございません。幼稚園と保育園の性格があるまじ
味では違ふわけがございします。――かゝる保育園の方でも父
兄の方々が全園的にたゞ保育するといふことではなくて教育と
いふような面をぜひとも加味してもらいたい。こゝに一つ要望が全
園的にきてゐるわけがございします。――こゝに一つ、保育園の幼
稚園的な教育を加味してもらうたいといふのが出てゐるわけが
ございします。文部省と厚生省とはお互いに話合つて文部
省の言葉集ではございせんが保育園の幼稚園化といふ線を

出（て）いるのではないかと思ひます。

幼稚園の方は御承知のように幼児教育ということと文部省が教える内容等も基準を示してあるわけだ（で）います。なほ年令の低い子供（で）いますから長い時間教育するということとなく午後前乃至は遅くとも午後二時まではやまわけ（で）います。が保育園の方は主として父兄の方が働きに出て子供たちが足手まといになつて家庭で保育できないので保育園に送るというのが（主）に（で）います。一応そういうことで保育園の子供を幼稚園の方にという希望を持つてそういうことができる可能性があれば幼稚園の方に向けま（う）う働いている方には午後二時に帰されたのではだれも家に帰らない。それでは保育園の方にお願いしたいということになるのではないかと思ひます。ただちに幼稚園一本化ということも実態を調べてこのところを将来きめなければならぬのではないか、こう

思うわけがありません。

〇二八番（山田教宇君）

大体了解し、まゝにけれども東京あたりで幼稚園の入学が二十倍、三十倍という入学試験があるわけですが、それはいど幼児教育の重要性が叫ばれてゐる。これを保育園と一語に見るという考えは間違つてゐる。どこまでも幼児教育の二つの見通しを付け、将来の計画を立てるべきではないかと思ふます。もう少し教育長さん勉強していただきたい。要望して終ります。

議長（田中祿郎君）

議案第二十六号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

一〇番（辻田実君）

私は本条例に対して反対したいと思っております。

先ほどの質疑の中が幾つか明うかにされてありまするけれどもそれらの案を勘案いたしまして私は保育料の値上げについて反対したいと思うわけでございます。

まず第一点は現在館山市におきまするところの幼稚園が必ずしも全域にわたって均衡がもたれてあるということではないと思っております。ある幼稚園では二年保育ある幼稚園では一年保育ある地区については保育園の中にありて行なわれらるるこういう状況の中にある。こういうことがまず第一点

第二点といたしましては今回の保育料の値上げに対する基本的な見通いが無いということでございます。

すなわち前段にありて申し上げましたようにこの幼児教育の不均衡をなめすことがさうには現在の幼稚園の

教育に對する中ぶもつてどつても最低である。これだけのものを負担してもうわければならないのだ。そうして根拠がないといふこととてここにこの案については全県的に見ても当局は全県並みに平均並みにしていきなさいといふことをあつしやうてありましてが平均値を取れば千二百円位になるかも知れません。が、實質的なところから見れば千円以下ぶもつて運営してゐるところが多くある。特に鉾子は館山市より機構も大きい。幼稚園の教員も多いといふ中ぶ六百円という現状がある。こういうところの見通し――財源的に明確さが欠けてゐるということが反對の第二の理由ぶござんす。

第三番目に市長は常々特に教育につては自己負担の軽減をはかるといふことを四十年來、年度以來施政方針の中で申してゐるわけぶありまして、さうして面について今回の幼稚園の値上げの財源の根拠といふものは決して幼稚園教

育すのものに対するものはなくてむしろ税収入の増加
館山市全体の予算を増加させるには幼稚園の保育料
を上げるようなことをしないとなかなか伸びそうがない。

固定資産税や市民税が取れない、こういうふうな観念に
て幼児教育からというところの財源を取るということとは
私は政治のありかとしてかつ財源の調達方法として好ま
しくない。これが完全に教育化されているということを行な
れるならば、知らず第二段にのりこまざるべし、たうな実
態にのりこ上げられるということとは非常に遺憾がある。
そういう事にあつて、まゝ私はこの保育料値上げに對し
ては反対するものではない。従いまして執行部におかれ
ましては、こゝろに案を十分考慮されまして取り下げを
いたさうなことを御提案申し上げる次第ではない。

議長（田中祿郎君）

本案に対する採決は起立をもちて行ないます。

本案に賛成の方は御起立願います。

(起立多数)

議長(田中祿郎君)

起立多数より本案は原案通り決定いたしました。
暫時休憩いたします。

午後三時十七分

休憩

午後三時四十五分

再開

議長(田中祿郎君)

休憩前に引き続き本会議を開きます。

日程第十一議案第三十七号を上程いたします。

一六番(関武夫君)

所管課長にお尋ねいたしますが、ゴミの徴収料金に關連いたしまして、現在ゴミを収集してありますことについてお尋ねしたいと思っております。

現在何世帯位やっているのか、車とか人員とかそれから今後どこかの方面に収集区域を広げる予定があるのか、それからゴミ焼却炉の概況について御説明願います。

衛生施設課長（吉田耕一君）

お答之申し上げます。まず第一点の収集世帯でございますが、ポリバケツを収集してありますものが六千七百二十四戸でございます。世帯まづばうきりと確保をしております。その他佃々に組合を通じてありますもの組合外五百五十戸、ポリバケツの収集が六千七百七十九戸、その他に事業所などによりますものが四十一件ござえます。現在の収集数でございますが、七六五ござえます。その人員が二十六人、女十九

男七人 運転手が現在八名おりまゝ一名が予備といふことゝ
ございます。それから今後収集区域を広げるかどうかという
点もございます。が市長の意見も十分参酌いたしておりますと
もに諮問機関でございます。清掃・審議会等にも諮問し
意見を徴しにわけございます。がやや特別清掃地域に近い
ような地域についての収集区域の拡大といふようにという答申
があつたわけでございます。まゝさうに面も理事者の方とも相
談し今度完全に焼却できる施設がございまゝにのび拡大
をはかつていきたいと考えております。それからゴミ焼却場
の現況もございます。が現在完成いたしまゝ暮から乾燥を
実施し二月に入つてからゴミを一定量毎日投入いたしまゝ
その乾燥をしつゝあるのが現状でございます。大体業者の意見
と申しますと三月一日ぱいどつた乾燥が完了するといふ
といふこととございます。ので新年度四月から完全操

業にもつていふにたいと考えてある次第でございます。

一六番（関式夫君）

わかりました。さうにお尋ねしますが大体の経費がどの位か
しつてに對して現在の四十円位の位集つてあるのかうな御
説明願ひたい。

衛生施設課長（吉田耕一君）

ゴミ関係の経費でございますが人件費その他の經常費を
含めまして約千四百九十方約千五百方というふうな私ども
計算してあります。この中には多少の修繕費等も入つて
あります。なおこれに對しまして新年度から焼却場の作
業員と申しますかどううなものを三名程度ほしいという
ことと現在計画してあります。それらを百二・三丁方約千
六百万程度ではないかと考えております。

なおこれに對します歳入でございますが四十一年度の収入額

でございますが大体三百四十二万七千円程度が見込まれるとい
うふうに考えておられます。このうち新年度になつても御承
認願えれば百七十一万程長の増収が見込まれるといつ考え方を五
百十方乃至二十一万の手教料としての総額が見込まれるといふこ
とが實際の支出面から参りますと二十万乃至千百万繰り出し
ていかなければならないといつ考え方を持つておられます。

なお付け加えますとやういふような観点から公共料金の値上
げという問題につきまゝは私どもも神経をとがらす市長
の諮問機関でございますが審議会あるいは議会の常任委員
会の協議会等の御意見も伺つて一応線を出したいといつ考
え方を審議会等にも諮問しなれ審議会の答申を概略申
し上げますとやはり御質問にありまゝのような区域の拡大を
今後もしほいといふ点あるいは単価の値上げにつきまゝも
いろいろ検討されたのでございますが答器に大・中・小と

分れてあるわけが料金の商正化という面から容器の容量
 等についても値段の格差があるもいんではないかという御意見
 も出たのでござります。一か一ながら取り扱い上の實際の問題
 点等もあるわけがあります。なお容器のみではなくてボ
 ールに入れたり出すとか炭俵に入れたり出すという実情も所轄一卑
 し上げていろいろ御審議を願ったわけがあります。總体的に
 考慮いたしましてやむを得ない単価なかつかというふうな
 容申をいたしたにきいていわけがあります。本市の方といたしましては
 多額の財政需要をかかえてあります。本市中がありますので
 どうしても改定がやむを得ないという観点を取ったわけござい
 ます。以上について観念から値上げ後におきまして収束木
 の迅速商正化あるいはサービスの充実等につきまゝ私ども完
 全に努めるという心構えをもちまして今回提案した次第
 でございます。そのように願っています。

二三番(中村省吾君)

ただいまの説明が大体経過はよくわかりました。が清掃事業を行なうところというところをただいまの言葉と葉の中に公共料金という言葉を使われにわけがあります。

私考えて見まするときにゴミの収集に当って一体公共料金といえ、いえ、公共料金といえるだけの方策を市が取っているかということに疑問がある。というのは市内においては週三回も収集してある。しかし出ていくとも全然事がこない地域がある。そういう地域がある。全然その措置を講じないが、これ果て公共料金といえるか。そうしたところから市の考えをまず答弁願いたい。

衛生施設課長(吉田耕一君)

ただいま申し上げました公共料金という言葉の適正かどうかという点でございますが、この点にうろたえては適正であるか、ないかははっきりいたしません。が通常考えたりあります。と葉を申し上げ

ば、一にのぶこの点、こつに住民からいたゞきまう料金とい
うことにかえさういたゞきたいと考ふるわけだ、こつにまう。

。三番（中村省吾君）

そこを本案にありていわゆる値上げということが提案されてお
るの、こつにまうが私は値上げといふことよりもまう、こつにま
集するといふことを市がどこまでやるかといふことの方が
先決ななかつかと思ふ。かかるうちに値上げ云々と
いふことがいわれるべきではなかつか。現在の四十円に、こつ
多額の持ち出し、六十円に、こつ多額の持ち出しになる。
大に差はない。その結果として六十円に、こつために全市
民にのぶかといふと、人ではない。依然として自分のところにきこ
くれないといふ不公平が残る。まう値上げをするよりも
こつような不公平をなくするのに努めなければならぬと私は
考ふる。そのことが解決されない限り、幾らに値上げしても不

平がなぬうない。極端にいうとでは地域全然こないとこは千円取らぬもいというふう。自らのところに来ないからいうところどころから千円とつても二千円とつてもいいというふう。現在実施してあるところは上げられれば大変だという声が出る。従って館山市民に公平にしためかつふにあつてはいわれなければ片手落ちがまずまず、こういうことをやった結果は市民の不平等不満を増大するだけ、何ら価値がないと思ふ。その点について課長さんの御意見を伺いたい。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

第一点の収集区域の点でございますが清掃区域というものを定めますのに清掃法に基きまして特別清掃区域というのが指定されるわけでございます。市街地的形態を持つてある地域を収集の対象としていくというのが原則でございます。なぬう後これを拡大して清掃地区に包含して、収集に

努めて参りたい。このように考えざるわけございません。

それから一番目の全市民の収集がふきないということから不公平の解決があります。が現、払いたまはるは全部の地域の収集は不可能であるというふうに考えざるあります。しかしながら集団収集がなくても特別な営業所等の収集などについて区域外でもふきる範囲において実施していただきたい。こういう考え方を持つてあるわけでありまして、逐次そういう面等の改善もはかられつつある。なお館山市の発展と相まって特別清掃区域の指定をいたしまして、皆でその方の不平を一日も早く解消していただきたいというふうに考える次第でございます。

・二三番（中村省吾君）

なお一点お伺いしますが、清掃区域に指定されてない区域でゴミを、こういう場所に捨てるはいけないという立札が何カ所か

立つてあります。一からば捨てる場所がないという家庭に対して
どういう措置を取ってきたか、その点について。

衛生施設課長（吉田耕一君）

清掃区域内にあります捨てる場のない家庭の措置という御質問
向ふございませうか。

二三番（中村省吾君）

清掃区域というところの前モデルケースミタという言葉を聞
いてあります。がぼろぼろに清掃区域というものが私もよく思
い出せませんが、そういうところなく一例を申し上げますと西岬
地区にいます。夏冬等避暑客もたくさん、国民休暇
村もあり鳩山荘もある。観光にぜひなければならぬ工場地
がある。あめいところ。が現在ゴミ収集にいていないところ。が
いつ見ると海岸にゴミを捨ててはいけないう盛んに立札が
立つてある。あの地域にはどこにも捨てることの出来ない家庭

衛生施設課長(吉田耕一君)

がたくある。幸いに火と煙とが埋める場所を持つてある人もあり、また、こういうところに対して捨てる場所のない家庭に對して市はどういう措置をとるにしようかとその点を聞いてある。

いわゆる清掃区域に捨て場所のない家庭については全部収集をいたします。それから今お話しのご様子で西岬地域については昨年にいっても区長さんを通じて希望者をつたえ、わけがあります。そういう二回にわたっていついということと連絡をとり周知していただき、もう収集に参加したわけがあります。が、いつでも出なくなつたというのが現状でございます。しかしながらそういう声は確かにうちの方にも集めてもらいたいという要望もございまして、私も試験的にどの程度あるかということを実行いたしました。徹底ができていなかっただけかもしれませんが二回やったができていかつた。そういう面に

井—ま—は清掃区域を除外—市自体としてやういふこと
いうことで現在実施—あります—今後十分話し合いた
いに—ま—く収集はやるように努力—たいこのように考ええ
あるわけ—で—ま—す。なお富崎地域などにあき—ま—ても
焼却場が完成いた—ま—たので収集に踏み切—ういふこと
なお清掃審議会等にあ—くも—う—に面の要望もある—
必ず清掃地域の回数に満—た—くも週一回なり二回なり
範囲を収集をや—うに—たい—といふ答申も—で—ま—す
その答申に基—いて—う—く考え—で—ま—す。

・二三番（中村省吾君）

大体わかり—た—が—すれに—ま—ても今課長の答申—で—
う—う—に—う—いふこと—で—ま—すので大体
私のい—わんと—する—ことに努力—する—といふこと—と—思—います
市は—う—う—と—う—に—ゴミを捨—て—は—い—けない—とい—う—立—札を立

るからにはここはう捨てていいということを考えなければ
ならない。それに對する措置は、りくとも区域を広げるとか
広げないという問題外に、市が責任を持つてやらなければ
ならない。この案やるといふこととを確認してよろしいか。

衛生施設課長（エロ田耕一君）

そういう地域に對しましては、十分私どもと話し合ひまして支
障のないように今後進めたい。このように考えております。

〇二二番（君塚善三君）

ゴミの収集事業というものは、公共性の高い事業でございます。
すのぐ私は公共料金というのが当然だろう。公共料金とい
うことに對して異議を述べたものはございませう。ところが
環境衛生が、ありまのぐ全員が協力してこそは、いめくその
効果があるものがある。ならばこそ、全員加入に努めてやつてきた。
従つて加入者の中には、経済的に弱者といわれる方が多く

合はれぬあるということも念頭においていただきたい。

二年ほど前予算市会に値上げが出されるこれに対して反対をして撤回したということがあるわけでありましたが当時と現在において決まらぬわけがない。

値上げすることによって年毎百七十万の増収がある。この一つとてふことであります。が先の市会におきましては公共料金値上げ反対の請願を採択してあるという経緯もあります。そのわけが百七十万の増収のために零々細な経費的に弱者にこういう困難をきたすようなことはやるべきではない。かような意味におき、まして私は本値上げに對しましてはさういふから反対するものがありそうです。

一〇番（辻 実 君）

三よほど関連してお伺いしたいと思つたわけがあります。

第一点は居塚議員があつたいま、たが公共料金値上げ反対の

決議が昨年の議会でも多数の市民の要望により決定されて
ある。この点についてはどのように考えてあるか

二番目として中村議員とあり、ありまして、ように特別清掃
地域外に及びます。というの問題でございます。

本日提案されてあります。ゴミ焼却場等の項で一般の指定
容器収集によるものが一月四半内から六十円ということに
なっております。指定清掃地域外についてはどうか。

指定地域外におきましては一般家庭旅館とかいろいろ項目があ
りまして三百円とか半円とかという料金があるわけでありま
す。が、この点についてはどうか。従って一般家庭の特別清掃
地域における六十円の値上げについてはあまり意味がないの
ではないか。というふうに思う。容器収集についてはこの
点についてどうか。容器収集の部面だけ赤字か。ほかの
ものが赤字なのか。御説明願いたいと思っております。

それから地方自治法の二条、三項、六号、七号にどんない処理
並に清掃問題について地方自治体は責任を持つてやらなけ
ればならないのだという条項がござります。この解釈をいか
に考へてあるか。私は財政が許すならば無料とやるという義
務があると思ふ。それが財政がないために多少の負担を取
つてあるということがあるわけがござります。この点について自
治体の義務をどのように考へてあるか。以上三点につ
いて簡単に答え願いたいと思ひます。

・衛生施設課長(吉田耕一君)

三、点目からお答え申し上げたいと思ひます。自治法の二条、六
項、七項がござります。やはり市が無料とやるべきが当然であ
ると私も思つてあります。またそうすべきだと思つてあり
ます。一、かし先ほど申し上げましたように全市民の対象と
はしないのだという点だとかあるいは搬出されます区域別個

々の家庭等においても相当相違があるという点がある。わ市
 といたしましては多額の財政需要をかかえてある。一口に申し
 ます。と文化の進み方が強くなるに財政力が伴うない
 のが現状の館山市ではないかと思ひます。そういった事情等か
 ら考えまゝある程度の手数料をなうだいいく多少でも
 そうした財源に回していく。こういう観点からこの程度料金を
 改定してもそう無理なわけはないかと思われる。ううという
 結論を見まゝ今回の改定にのぞんだわけでございます。

もう一失の赤字というものが容易に収集によるものかといふこ
 とでございますが私もあくまでも企業的な考えで実施す
 るという考えはも頭ござんません。従いまゝ最近初に申し
 上げましたように、わ市の財政が苦しいのを補うにたい
 て、そういった原始的な処理方法なくして文化の進み方に相ま
 完全処理のむきな施設あるいはその他の機動力という面に

充てていくという考え方で当然市の一般財源の繰り出しによりまゝにやるといふ考え方がござります。赤字とか黒字とかいふことではなく考えらるわけござります。それから第一赤字ござります。が昨年の公共料金の値上げ決議ということに關する問題ござります。が直接私も担当であります。今調べてあるござります。がぶのやぐいにござります。

一〇番（け 田 実 君）

調べてある間にもう一つこの案についてある婦人会の席に出来たときに普通の親子四・五人の家庭を一周間一泊あれば足りる。私の家は一周間に一回か二週間に一回位しか捨てない。週三回さくももうつうは結構だけれども値上げなければならぬということであれば家庭の婦人の方たちの意見は一回位減らしても値上げしてもうけない方がいい。こ

いう意向が非常に強かつたわけですね。こういう意見等はどのように聞かれてあるか。先ほども中村議員が申しやまいたように二十円値上げしても赤字は解消されない

市長職務代理者助役（小出武男君）

ただいま公共料金ということから派生いたしましていろいろのお話が出ています。たが課長が申しましたように便宜上表現した言葉でこれを世間にいう郵便とか電信電話あるいはふうな公共料金を見てもちやうと虚うののではないかと思ひます。と申しますのは先ほどもありましたように全市民が均等にこれに関連してあることではないわけでございます。一つならば受益者負担という要素もあるのではないか。一般にやわがれてありますのは私どもも反対してあります。これとはちやうと性格が違つと判断してあります。さういふことで百五十万位の財源を求めるのでは相当不信の方が大きい

のふはないかということでもござんすが、ただ私もただけで愛
然ときめたいわけではござんせん、委員会の皆さんに諮問い
たいまい、今の時代からいうこの程度のことはそんなに
大きく影響するほどではないという客観論に立ちまゝく
率からいうと五〇％になりすぎけれども、基本が四丁内をこ
がござんすから大体この程度で、たう、市民も了解してくれ
るんではないかというふうに考えたわけでもござんす。それか
ら先ほども申しまい、たう、一部に一部の地区の負担をございま
すのふ、たう、保険税の関係と同様に、受益者の方があ
る程度持つてもいいんではないかという考え方もあるわけでも
ござんすが、それによつても、零々細な方もありまう、のふでござん
なう、無料にすることが結構だ、たう、と思はれまう、が、自治法に現
定してあることも、自治体でやるべき、仕事を明記してあるに
過ぎません、全部無料をやると、たう、趣旨ではないわけ、経

清が許せば無料に持つていきにい。こゝう線に考えてあります。

二二番(君塚五三君)

ゴミの収集料金については市はすでに実質的な値上げをやつてあるということはポリバケツの購入補助金はいうの面にか打ち切られるある。値上げは実質的になされてある。こういったものは、めつたに自分のところの取り扱いでこわれるものではない。取り扱い者の方においてこわれた。ところが各自が全額負担において補助があるという事実がある。こういった差をどうようにお考えになつてあるか。再度お伺いします。

市長 取務代理者 助役 (小出武男 君)

ポリバケツを作るとき市の方針によりまーくはじめても
ースといふときには奨励のためにあの時々にありこのみ補助する。
こういふことと始めたこととでござんまーくもうすぐにもそう実
は実施しつゝありません。今度買ふ人には補助の対象に考

えてあります。あの時点における奨励措置として補助
したわけでございます。御承知願います。

議長（田中 祿郎 君）

他に御質疑ありませんか。——質疑なしと認めます。
よって本案の質疑はこれにて打ち切り討論を省略いたします。
採決することに御異議ありませんか。

（「異議あり」と呼ぶ者あり）

議長（田中 祿郎 君）

これより討論を行ないます。

一〇番（辻 田実 君）

先ほどの質問の中で相当多くの問題集が出さくあります。の
か一々触れます。三つ四つ上げまして、その中の問題がござい
ます。その私はこの清掃条例一部改正に反対意見を述べさ
ていたのだと思います。

まず第一点は先ほども御答弁にござりましたように、まず自治
 法の第二十九条にござりますように、地方自治体が清掃事業とか
 人かい処理事業というものはやつていくのだと規定されてありな
 ん。あかつ財政が許すならば、こうした方向へ持つていくのだといふこと
 がはっきり答弁されてあるわけがござります。現段階におきか
 ば、そういう立場をむしろ重視すべきであるといふ案を考えて
 こゝに二十円値上げ、市民感情を刺激するといふことに
 ついては時期を失くある。適切でないか、うな観念か、今回の
 清掃料金の値上げについては反対したい。第二点は特定清
 掃地域内にあります問題はある程度解消されてあるといたし
 まし、地域外における収集というものが完全にはれてない。

私は料金云々を論ずる場合にはやはりそれらの問題について相
 当の見通しを立ててもらいたい。清掃審議会におきかばとりあえず
 西岬、神戸方面について週に一ぺんなりやりたい。こういうような

意向は漏らしてあるようだが、いさまするが、そうするのだったら、はつきり地域内の指定をしてやるべきだ。こういうことの打ち出しが値上げする場合には必要ではないか、値上げしからやるといふこととなくやるという前提にあいさす上げていくことが本質であり、この種の問題の扱ひ方ではないか、かように思ふ、わりがございします。それからもう一点、この種の問題について一番基本にならざるものは市の財政が貧弱だから従つて清掃料金に對する赤字が出て、あつた一部に費用に充てるために云々ということがいやれてあり、つまり、それならば清掃取り扱ひ手数料全体にありて考えるべきだ、それを一般家庭のみかえしていくことは一般市民本位の政治ではない。特殊なものについて考へなあり、この料金があとから出てくるのがたてまえではないか、そういう面については市の指定した容器収集による料金の項だけが取り上げられてあるということだが、私は賛成できない。そういう意味にあきま

して本議案に對して私は反對する者でござります。

二三番（中村省吾君）

私も一〇番議員に賛成する者でありますけれども大体一〇番議員の方から反對の意見が述べられておりますが私の方から若干申し上げますと先ほどから私が全地域にわたっていいということをつたわけて全地域に延長するものが正しいのだという市当局の考えもある。西岬地域に実施したけれどもあまり利用者になかったということも課長は答弁した。そのことを私具体的に聞きました。そうすると四十円出すのならば自分の庭に埋めるといふ家庭が相当あった。西岬地域の特性として県道から山の方に入っていくけない。むしろ県道まゝ持つていかなければならないということもあります。市がやるのだから無料だと思つたけれども四十円取られるからつまらないから持つていかなかった。こういう意見がある。

それから一般家庭で特別清掃地域内にあいても四十円払っている家庭が二十円上げること非常に困るのだという家庭が相当数ござります。またそういう家庭こそ自分の庭に埋めることができない家庭なんですよ。

どう得るならば四十円出さなくても自分の庭に処理すればその方が楽になるのだという家庭が相当あります。いわゆるそういう人たちが地所を持っていないからどこにも処理できない。従って市の処理にありがたく思ってく出てくる。それを値上げさせることは非常に負担になる。以上私この問題については反対いたします。なおあかつ全地域に及ぼすべきだ、かように思えます。

議長（田中祿郎君）

他に討論の方はございませうか——討論ないと認めます。以上で討論を打ち切ります。

採決いたします。

本案に賛成の方は御起立願います。

(起立多数)

議長(田中 祿郎)

起立多数 ようく本案は原案通り決定いたしました。
本日の会議はこれにて延会といたします。

次会は明三月十四日午前十一時開会といたします。

その議事は本日に引き続きまゝ議案第二十八号より
審議を行います。

午後四時四十五分 延会

本日ノ會議ニ付一々事件

一議案第十一号乃至第十五号

一議案第十六号乃至第二十七号

出席議員

吉田 勇 右 郎

鈴木 正一 郎

小 柴 孝

館 石 伝 蔵

田 中 祿 郎

秋 山 六三 郎

望 月 照 正

安 西 益 男

辻 田 実

石 井 正

菊 井 敏 博

志 村 信 作

小 沢 恵 太 郎

関 武 夫

黒 川 佐 太 郎

西 村 真 次

藤 田 好 治

保 科 忠 夫

江 田 徳 太 郎

君 塚 喜 三

中村省吾

島野茂樹郎

鳴田繁

山田教宇

鈴木市蔵

安藤龜吉

安次徳順

三沢節

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

大席議員

田村源治郎

山口康

萩生田七郎

出席説明者

一 第一日目以下

出席事務局取員

一 第一日目に同じ

